

「第10回 防災サバイバルキャンプ」平成29年度の実践

幸手市立吉田小学校

1 はじめに

本校は幸手市の最東部に位置し、学区の東側を江戸川が流れ千葉県野田市と北側は茨城県五霞町と南側は杉戸町と接している田園地帯にある学校である。昭和59年、旧幸手町立吉田第一小学校と吉田第二小学校の廃校に伴い誕生した今年度開校34年を迎えた児童数92名の小規模校である。

児童は素直で明るく、元気に学校生活を送っている。学校に対して保護者や地域住民が協力的で、豊かな教育活動を支えている。秋季大運動会は、幸手市体育協会吉田支部と共催し、吉田地区民祭と兼ねた地域と一体となった催しとなっている。また、地域住民が指導者となり卓球の放課後子供教室の開催、田畑を借用しての稲作りや野菜作り、そばの栽培等、多様な体験活動を行っている。そして、学校運営支援協議会を主体とした防災サバイバルキャンプを実施し、子供たちや地域住民等の防災意識の向上を図っている。

本校の目指す学校像「今日が楽しく明日が待ち遠しい学校」－児童の「認められたい」「人の役に立ちたい」「学びたい」を充足できる学校－の実現を目指して、日々学校・家庭・地域が一体となった教育活動を推進している。

2 これまでの経緯

平成19年度に25団体の長で組織する吉田小学校運営支援協議会が結成された。

その中で、子供たちの生活体験不足、茨城県南部地震の影響の懸念、本校が避難所に指定されていることなど様々な災害に対しての課題があげられた。そこで、災害から身を守るためにとるべき行動及び知識の習得、地域住民と協力し避難所での生活を体験することで地域のコミュニケーションを図ることを目的に一泊二日の日程で防災サバイバルキャンプが開始された。各年度毎に、水害・風水害・震災と災害を分類し、各災害に対応した取組を行っている。

平成29年度は、第10回で「地震」をテーマに様々な体験活動を実施した。

3 活動のねらいと特徴

(1)ねらい

- ・災害時に主体的に行動することができる児童を育成する。
- ・避難所生活に必要なマナーや技術を習得する。
- ・地域住民とのコミュニケーションを図る。

(2)特徴

- ①自ら考え主体的に行動できるように、協力者は指導・助言に徹する。
- ②東中生徒が指導者として積極的に参加する。
- ③地域の人々との繋がりや交流が図られる。
- ④地元の消防団の協力を得た取組である。

4 参加者と日程

参加者は、本校児童、中学生、運営支援協議会員、地域協力者、PTA役員、保護者、幸手消防団第5分団、他市町教育関係者、本校教職員等である。今年度は小学生が79名、中学生が12名、協力者が約113名の合計約204名で実施した。

7月29日(土)		7月30日(日)	
日程	12:00 受付	-----	
	12:20 開校式 オリエンテーション	高学年	低学年
	13:00 起震車による地震体験	6:30 起床	8:50 記念撮影
	14:00 テント設営、用具準備	7:00 朝の集い	9:00 放水体験
	15:00 仮設風呂作り	7:30 朝食(α米エビ豆腐)	バケツリレー
	16:00 まき割り かまど作り	8:10 清掃、テント撤収	10:30 ポンプ車操法
	17:00 夕食準備 夕食	8:50 記念撮影	見学
	18:30 入浴(ドラム缶・仮設風呂)	9:00 救急救命法体験	11:00 水泳
	19:30 映画鑑賞	10:30 ポンプ車操法	ドラム缶風呂
	21:00 夜間校内探索	見学	11:30 昼食
	22:00 就寝	11:00 水泳	(流しそうめん)
	※宿泊は、4～6年生のみ	ドラム缶風呂	12:30 閉校式
		11:45 昼食	13:00 解散
		(流しそうめん)	
	12:30 閉校式		
	13:00 解散		

5 実践

I 運営支援協議会・事前説明会

運営支援協議会を開催し、実行委員長から本年度の日程やねらい等について資料を基に具体的に説明し協議会員の協力を得る。

数回の代表者会議を経て事前説明会を開催し、実施計画・役割分担・事前準備等について共通理解を図る。その後、各担当に分かれて細部について打ち合わせを行う。特に、中学生に参加を呼びかけ、今までの経験を活かした活動や大人の一員として仕事分担を担わせ成長の自覚を高める。



II 起震車による地震体験

前年度のサバイバルキャンプ後の児童アンケートにおいて「あなたが、今、一番心配な災害は何ですか？」の問いに対して回答者の70%が「地震」と答えた。その背景には、前年4月におきた熊本地震が考えられる。また、6年前に起こった東日本震災時に、小学校に在籍していた児童はもういない状況である。そこで、東部消防組合幸手消防署に依頼して地震体験を行った。4～6年生は「震度7」を、1～3年生は「震度6弱」を体験した。いずれも大きな揺れに驚くと共に地震発生時は「命を守る」こと以外は何もできないことを学んだ。保護者や外部参加者も様々なパターンの地震体験を行った。



Ⅲ テント設営

今回は10回目を記念して、今まで校舎内で宿泊していた女子も校庭で宿泊することになった。災害が起こったときに学校は避難所となる。その時は、教室や体育館だけで避難民を受け入れることは難しいと考えられる。当然、校庭も避難民が宿泊する場所になる。指導者の保護者に手取り足取り教えていただきながら、宿泊する子供たちが自分たちで協力してテントを張った。テントでの宿泊は学年毎とし、学年の絆がさらに深まる体験となった。



Ⅳ まき作り

災害時には、ガスや電気が使えないことが想定される。そのため、燃料となるまきが必要となる。子供たちが割ったまきが、飯ごう炊さん・カレー作り・ドラム缶風呂・仮設風呂体験の燃料となる。毎年、初めて一泊二日の防災サバイバルキャンプに参加する4年生の体験希望者が多い。保護者の指導の下、ケガの無いように、ゴーグルや足を傷つけない保護具を使って体験を行う。用意した木材も地元の方の寄付によるものである。



V かまど作り・飯ごう炊さん・カレー作り

4～6年生を6つの縦割り班にして、かまど作り・飯ごう炊さん・カレー作り体験を行う。初めて参加する4年生を5・6年生がリードして体験が始まった。まず、火の付け方を教えてもらい、次に空気の入り口に注意してかまどを設置する。そして、飯ごうの中で米をとき、家庭から持ってきたにんじんやタマネギなどの野菜を調理する。4年生は包丁を使うのも初々しく、6年生がしっかりサポートしてくれている。かまどに火がつき、全部の班が無事に調理することができた。災害時に水は貴重品になる。汚れた食器を洗う水を節約するために、食器はすべてラップで包んで使用する。自分たちで作ったカレーライスが格別な味だった。



VI ドラム缶風呂・仮設風呂

子供たちの楽しみな時間である。野外で友だちと一緒に入る風呂は特別である。ドラム缶風呂の設置は保護者や地域の方が行ってくれるが、仮設風呂作りは一緒に子供たちも協力する。仮設風呂のお湯は、ドラム缶風呂で沸かしたお湯を協力者がバケツリレーする。もちろん、ドラム缶風呂で使っているまきは自分たちで割ったものである。毎年恒例の子供たちに人気のイベントである。

今日一日の疲れ？を取るため、「さあ、入浴」



VII 映画鑑賞、夜間校内探索、就寝

今年は、屋外での体験ばかりで室内で少しの休憩を取ることができなかった。そこで、冷房を効かせた図書室で映画鑑賞を行った。映画は「ぼくらの七日間戦争」である。これは、「遅刻厳禁、パーマに長髪禁止。無断手荷物検査で勝手に持ち物を没収するなど、抑圧された教育制度に反抗した青葉中学の1年A組の生徒たちが廃工場に立てこもり、大人たちと徹底抗戦をする。」物語であり、子供たちの協力や結束を描いた映画である。子供たちは、ゆっくりまったりと鑑賞することができた。

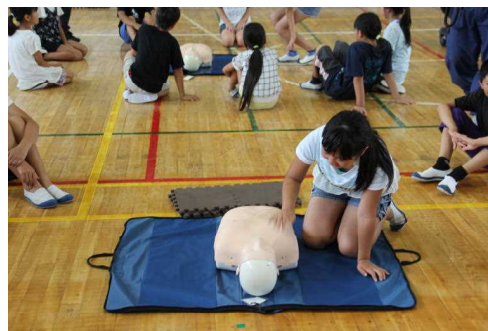
その後、3階の特別教室から体育館までの夜間校内探索を行った。これは、普段通り慣れてる所でも、暗闇では感じが全く違うことを実感させるために実施している。中学生がお化け役になり、歩いてくる子供たちを驚かすのも毎年恒例で中学生はお化け役をすることで中学生になった実感？を味わっている。体育館では、保護者が作ってくれた夜食をいただいた。「もう、満腹。」あとは寝るだけ。でも・・・。

最後は就寝。今年は全員校庭のテントで就寝した。防犯のために吉田駐在所の竹林警察官がパトカーを用意してくれた。また、普段警備会社に勤務している保護者の方が一晩中子供たちを見守ってくれた。テントの中は、布団はなく中に敷いた畳の上にごろ寝である。初めての体験で興奮していたせいか、なかなか寝息は聞こえてこなかった。



Ⅷ 救急救命法体験

前年度のサバイバルキャンプ後の児童アンケートにおいて「今後、やってみたい者は何ですか？」の問に対して「AEDについて知りたい」「心肺蘇生法について知りたい」がとても多かった。子供たちの共助の心が育っている結果とうれしく感じた。そこで今回は、高学年の子供たちを対象に、東部消防組合幸手消防署に依頼して救急救命法体験でAEDの使用と人工呼吸についての体験を行った。全体の指導が終わったあと、子供たちはそれぞれ班に分かれて体験を行った。今回は、見学に来ていた宮代町立須賀中学校の生徒も飛び入りで参加した。最初は、小さい声しか出せなかったが、次第に大きな声が出るようになり、「他人の命を助ける」そんな気持ちが高まって体験することができるようになってきた。その後も、真剣に行う様子からは、子供たちが命の大切さと共助の気持ちが育まれたことと考えられ、うれしい限りである。



Ⅷ 放水訓練、バケツリレー

高学年が救急救命法体験を行っているときに、低学年の子供たちは地元の幸手市消防団第5分担の協力による放水訓練・バケツリレーを体験した。この後、プールやドラム缶風呂・仮設風呂に入るため、水着での体験となった。放水では、水の勢いのすごさに歓声が上がりと共に遠くまで届くことに驚いていた。バケツリレーでは、リレーゲームに勝てるように異学年が協力している姿が見られた。



X ポンプ車操法見学

今年、2年に1回のポンプ車操法の大会のある年です。そこで、日頃から訓練されている幸手市消防団第5分団のみなさんに実演していただきました。普段の優しい表情ではなくきりっとした、そして、きびきびした動作に子供たちは驚くと共に、火災の現場で消火活動をするの大変さを知ることができました。



XI アルファ米試食（エビピラフ）、流しそうめん、お土産

2日目の朝食は、アルファ米のエビピラフと保護者の作ってくれたお味噌汁です。中学生が中心となって準備してくれました。朝食後はみんなでそうじ。朝掃除、特に食事後にきれいにするのは当たり前のことです。

昼食は、運営支援協議会員の皆さんが前日の竹取りから始め、全て手作りによるお楽しみの流しそうめん体験です。次々と流れてくるそうめんを箸で引っかけて、友だちと競争して食べる姿が見られました。

とっても、おいしく、楽しく、お腹いっぱいいただきました。

今年、10回を記念して参加者全員に「東京防災」をお土産に渡し、防災について家族で考えてもらうきっかけとしました。





地元の消防団と一緒に参加者全員で記念撮影

6 終わりに

平成29年度は、「地震」をテーマに様々な体験活動を実施しました。これからも、防災サバイバルキャンプの実践が、防災意識と技術の向上、そして何より吉田地域のコミュニティを深める活動になっていくことを期待しています。